

# 大学生に寄り添った新たなもつけへ

C1240842 佐藤綾美

テーマ:利用者のニーズに応える新しいコンビニ(もつけ)の提案

①私は実際にもつけに行って観察を行った。その時に感じた事として、置いてある商品が少なく、利用している人もあまり見られないという事が挙げられる。その事についてもつけの店員さんにインタビューしたところ、買う人が少ないため商品もあまり置かないようにしているとの事だった。また、教科書販売で使われていたスペースはフリースペースであるため、食事などで利用して良いと教えていただいたが、誰も使用している人はおらず、音楽などもなく無音であるため、もつけ全体的に寂しい印象を持った。

②この体験から顕在的ニーズとして、商品の取り扱いを増やしてほしい、またはもつともつけに行きやすい雰囲気を作ってほしいという事が考えられる。買いたいものが無ければ行こうと思う事がなく、人が少ないと何か買わなければならぬというプレッシャーを感じる事もあるため行く事に勇気がいると思う。この事から潜在的ニーズはできるだけ安く買いたい、欲しい物がリクエストできるようにしてほしいだと考える。文房具をリクエストする事ができるのはもつけに実際にに行けばわかる事であるが、それさえも知らない人が多いと思い、潜在的ニーズを考えた。それにより課題は「今より賑わったもつけにするには」と設定した。

③コンセプトは東北公益分科大学の学生向けに、お金を可能な限り節約しつつ普段の生活を楽しめてくれるようなサービスを提供するもつけという空間である。プロダクトは三つ設定した。一つ目は、もつけのインスタグラムを作ることである。現在の大学生はほぼ全ての人が使用しているSNSであるため、どんな商品を取り扱っているかや新商品、セール品、割引日などを投稿する事で、少しでも節約したい人や欲しい

ものがある時だけ買いに行くことができ、最小限のお金で済ませることができると考  
える。また、DM というメッセージを送り合える機能があるので、そこでの文房具の  
リクエストが可能になればもっけが閉まっている時間でもリクエストする事ができ、  
時間の節約にも繋がると思う。二つ目は、イートインスペースを使って文房具のお試  
しスペースを作ることである。大学の中にあるコンビニは絶対に大学生は使うと思う  
ので、コクヨやゼブラなどの文房具の開発や販売を行っている会社に協力していただ  
いて、開発段階の物や新商品の体験を行うことができるようすれば、あまりできな  
い体験であるため、体験してみたい人は多いと思う。勉強においてデジタル化は進ん  
でいるが、少なくともテストで使う事やパソコンの作業中などに並行して使う機会が  
あると考えられるため、自分に合った文房具を無料で探す事ができる良い機会になる  
のではないかと思う。三つ目は、大学生のボランティアがもっけの運営に協力するこ  
とである。プロダクトの一つ目でも出したインスタグラムは、若い人が一番使いこな  
しており、もっけの店員さんが一から頑張るよりも大学生の力を借りるほうが色の使  
い方がわかりやすく、大学生が知りたい事を知ることができるのではないかと思う。  
店頭には出づに、メッセージで投稿を作ってほしいと依頼されたら、作成してインス  
タグラムに投稿するだけであるため、いつでもどこでも協力でき、ボランティアの大  
学生の負担も少なくする事が可能である。また、もっけには音があまりなく寂しい印  
象を受けているため、大学生が選んだ最近流行っている曲や人気アイドルの曲などを  
流せるようにしたら、曲を聴きたい大学生が訪れるようになり、その時に文房具をお  
試ししたり、お菓子買ったりして、もっけが賑わった楽しい空間になると思う。

④期待される効果としては、SNS によりもっけを宣伝する事でもっけでの経済活動を  
活発にする事ができる事である。それにより、今とは違う新しいもっけのある空間を  
作る事ができ、もっけが賑わっていて楽しい場所になると考えられる。